



たのしい！

特集

みなさんにとっての実践は「楽しい」ものになっていますか。

一言で「楽しい」ということは簡単ですが、「楽しい実践」とはどのようなものでしょうか。それは、単に教師や支援者が自分のやりたいことをやるだけでも、反対に、子どもや仲間が好きなことをするだけでもなく、双方の「楽しい」気持ちが響き合うようなもの、心が動く瞬間を感じ合うものではないでしょうか。

みなさんにも、ともに生活を重ねてきた子どもや仲間たちとのやりとりの最中に、「うん、楽しいね」と相手と心が通じ合える瞬間が、きっとあると思います。そんな瞬間の積み重ねが、保護者や家族の安心を生み、実践者の仕事のやりがいや豊かさにつながり、子どもや仲間のことをもっとわかりたいというねがいてなって、子どもや仲間たちを理解する努力につながっていくのではないのでしょうか。

今月号では、子どもや仲間たちの内面に寄り添い、その子・その人にとっての『楽しい』を共有するような実践の数々を、みなさんとわかち合っていきたいと思います。そして、これまで以上に「楽しい」実践をともにつくっていきましょう。

3年ぶりのそり遊び

山梨 児童発達支援センターひまわり

飯室智恵子

「ひまわり」は山梨県の峡東地域にある唯一の児童発達支援センターとして2001年に開設されました。友だち集団の中でさまざまな体験を積み重ね、その子らしい発達の支援を大切に行っています。

写真は今年1月に行なわれた「そり遊び」の一コマで、園児と職員でそり滑りをしている場面です。季節ならではの体験を親子・友だちと一緒に楽しむことが目的の親子参加の園行事で、コロナ感染症の影響で今回3年ぶりの実施となりました。コロナ禍であっても、今年こそ子どもたちの貴重な体験の機会を保障したい。実施方法、参加人数等の感染対策を職員間で検討しました。3年ぶりともなると例年の様子を知らない職員や保護者の割合も増え、期待と不

安が入り混じっていました。

当日は快晴に恵まれ、思う存分そり遊びを楽しむ子どもたちの姿がありました。もちろんこのような活動や寒さが苦手な子どももいます。でも、親子や友だち、職員と滑ったり、休憩しながらみんなの様子を見たりすることで、どの子どももそり遊びを体験でき、笑顔でした。最初は親子で滑る誘導役に徹していた職員も楽しそうな子どもたちを見てウズウズ。いつの間にか子どもを誘ってそり遊びを楽しんでいました。

「楽しい」は心躍る感情で、「楽しい」ことの積み重ねが、子どもたちがより良い自分になるうとする発達の原動力になっていることを、日々の子どもの姿から学んでいます。

(いいむろ ちえこ)